◯プレゼン開始

お辞儀

発表者１「こんにちは。私達はチーム『バラバラガムテープ』です。考えてきましたアイデア、アプリ『適材適書』について説明します」

スライドを進める。

発表者１「アプリの概要を説明する前に。さて皆さん、こんな事ありませんか？　ということで、このアイデアがどの様に役立つのか、そのシチュエーションからお伝えします」

スライドを進める

発表者１「スマホを弄っている時、知らない単語に遭遇しました。皆さんはどうするでしょう。まあ、とりあえず検索しますよね」

スライドを進める

発表者１「うーん。検索をしましたが、ちょっと難しい内容です」

スライドを進める

発表者１「とりあえず知らない言葉のリンクを開いてみしょう。」

スライドを進める。

発表者１「しかし辿った先の説明もさっぱり分かりません」

スライドを進める

発表者１「またリンクを開きます」

アニメーションが終わってからスライドを進める

発表者１「その先でも、また知らない言葉が」

スライドを進める。

発表者１「リンクを開けば開くほど」

スライドを進める

発表者１「どんどん増えていきます。」

スライドを進める。

発表者１「どんどん、元の言葉から離れていきますね」

スライドを進める

発表者１「ようやく一言調べ終わっても」

スライドを進める

発表者１「もはや全く関係のない言葉でした」

スライドを進める

発表者はしばらく沈黙する

スライドを進める。

スライドを進める。。

終わるまで待つ。

スライドを進める。

終わるまで待ち、進める

発表者１「さて、宇宙が滅亡する程はなくとも、かなりの時間を無駄にしてしまうことはあると思います」

スライドを進める。

発表者１「これを、何を調べてたか分からなくなる現象と呼ぶことにしましょう」

スライドを進める。

発表者１「知らない言葉を追っている内に、目的を見失ってしまう現象です」

スライドを進める

発表者１「ある言葉について調べていたのに、いつの間にか全く違う言葉まで調べている」

スライドを進める

発表者１「この現象は、一体なぜ起こるのでしょうか」

スライドを進める

発表者１「幾つかあると思いますが、私達は情報の繋がりに焦点を当てました」

スライドを進める

発表者１「リンクを辿っても、その先に元のページの情報は引き継がれず、主題が変わってしまいます」

スライドを進める

発表者１「では、どうすれば防げるのでしょうか」

スライドを進める

発表者１「それはリンクを辿っている時、常に辞め時を探すことです」

スライドを進める

発表者１「しかし、タイミングが早ければ理解できず、過ぎてしまえば何をやっていたのか分からなくなります」

スライドを進める。

発表者１「さながらゲームでタイミングを取る時のバーですが」

スライドを進める。

発表者１「適切なタイミングはわかりません。困りますね」

スライドを進める。

発表者１「それを、ページ内の知らない言葉の数繰り返します」

スライドを進める。

発表者１「もちろん、リンクの先でもです」

スライドを進める。

発表者１「こんな事やってたら、分かる分からないの前に、パンクしてしまいますね」

スライドを進める。

発表者１「なに調べてたか分からなくなる現象です」

スライドを進める。

発表者１「では、私達のアイデア『適材適書（仮）』について説明します」

スライドを進める

発表者１「一言でいえば、検索に流れを取り入れるブラウザです」

スライドを進める

発表者１「適材適所（仮）は、３つの要素の集合として、検索に流れを取り入れまず」

スライドを進める。

発表者１「結果の記憶」

スライドを進める。

発表者１「用語の関わり」

スライドを進める。

発表者１「学習向けUI。この３つです」

スライドを進める。

発表者１「１つずつ説明します。まずは「結果を記憶」です」

スライドを進める

発表者１「ここでは、データベースにユーザーが今まで学習した内容、理解できた文言などを記憶します」

スライドを進める

発表者１「これにより、新しい学習をする時、それまでの知識を活かす事ができます」

スライドを進める

発表者１「具遺体的に、単語の言い換えなどです。流れの源泉と言えます」

スライドを進める。

発表者１「次に、用語の関わり」

スライドを進める。

発表者１「ここではハイパーリンクやＬＬＭを利用し、関連する情報の中から、理解する上で重要となる情報を識別します」

スライドを進める。

発表者１「具体的に、先程大変なことになったページ」

スライドを進める

発表者１「重要だと思われる語句を特定します。これを繰り返し、流れる道を形成します」

スライドを進める。

発表者１「最後に、UIです」

スライドを進める

発表者１「目に見える部分として、他機能へのアクセスを容易にします」

スライドを進める。

発表者１「ただ他機能を呼び出すだけでなく、自身の機能も充実させる予定です。

スライドを進める。

発表者１「例えば、タブをツリー状にするなど考えています」

スライドを進める。

発表者１「３つの要素について説明しました。これらはそれぞれと連動することで真価を発揮します。具体的に説明しましょう」

スライドを進める。

発表者１「さて、３つの要素とユーザーが居ます。動かしてみましょう」

スライドを進める。

発表者１「学習計画を立ててくれました。ユーザーが知っている部分は除いています。これが実現したい流れの全体像です」

発表者１「その他にもそれぞれの要素を合わせ、いろいろな機能を予定していますが、時間が足りるか分かりません。気合を入れていきます」

スライドを進める

発表者１「ご静聴ありがとうございました。色々と書いてみましたが、根幹は『Web検索に流れを作る』という事です。それ以外は全てかっこ仮がついていますので、矛盾点、改善点等々を伝えてもらえると嬉しいです。Discordで送ってくれる方は、ユーザー名はYasahiやさひまでお願いします。それでは、12月までよろしくお願いします。ありがとうございました」